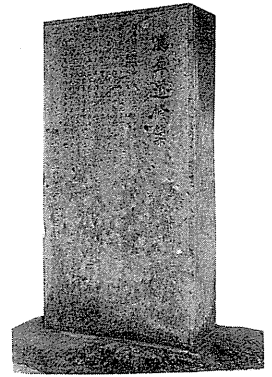


『馬車道』をたずねて

馬車道 「生野銀山道」「鉱山寮馬車道」ともよばれ、生野より飾磨津まで、12里15丁（約49キロ）の官設道。明治6年7月、生野支庁長、朝倉盛明がフランス人・レオン・シスロイを技長として起工、同9年に竣工。明治12年、兵庫県に移管されるが、播但鉄道の開通まで、播・但を結ぶ産業道路として地域の発展に大きく寄与した。



馬車道修築の碑（高さ139cm）
〈姫路市砥堀830-4〉

▼碑文（ふりがなは原文にはない）

（背面）

（左面）

（正面）

馬車道修築

技長 佛蘭西人 シス ロイ
通辨 鑛山寮十三等出仕技術
心得 浅田英吉

主計 高嶋得三
鑛山大属 齋藤善孝

鑛山中属 津田寿昇

但馬国生野諸山ハ大体金鑛ニシテ昔ヨリ世ニ名アリ然レトモ稼キ採モノ要法ヲ知ラス小利を貪リ漸ク衰廢ニ赴ク

朝議因テ官坑トナシ明治元年十月盛明命ヲ奉シコレヲ督セルヨリ以降但播暴民ノ災ヤ土人ノ紛擾ヤ外人ヲ狙撃スルヤ救難鍾テ至ル擔當刻苦コ、ニ六年盛明曾テ挫折セス豫メ佛蘭西国ニ詔シ大器械ヲ調ヒ順次経営シ尽ク古弊ヲ除クヲ得タリ而テ生野通路出入運輸甚タ艱シ故ニ自ラ山川ノ形勢ヲ実檢シ方法ヲ立

奏聞ヲ經テ六年七月此輩ニ授ケ馬車道ヲ築カシム是ヲ新廳ニ起シ播州飾磨津物揚場ニ達シ延長十二里十五丁石ヲ疊ミ砂ヲ敷キ高低ハ平均シ川沢ニハ橋ヲ架シ夙夜怠ラス三周年ニシテ功ヲ成セリ衆人稱ス我国未ダ曾テ有ラサル也今官物ヲ運送スル三年前ニ比スルニ費ノ省ク十ノ六七居ル加ルニ土人商旅ノ福ヒテ蒙ル取モ多シ寮ノ事体亦整フト云ヘシ此後事業進々止マラス終ニ万邦ニ秀出スル大利益ヲ立シ一豈快カラスヤ因テ管事数員ヲ記シ聊カ其勞ヲ慰スルノミ維時明治九年四月盛明任ヲ受テヨリ亦九年也

鑛山助正六位 朝倉盛明 誌

築造協輔

鑛山權大属

小林八郎

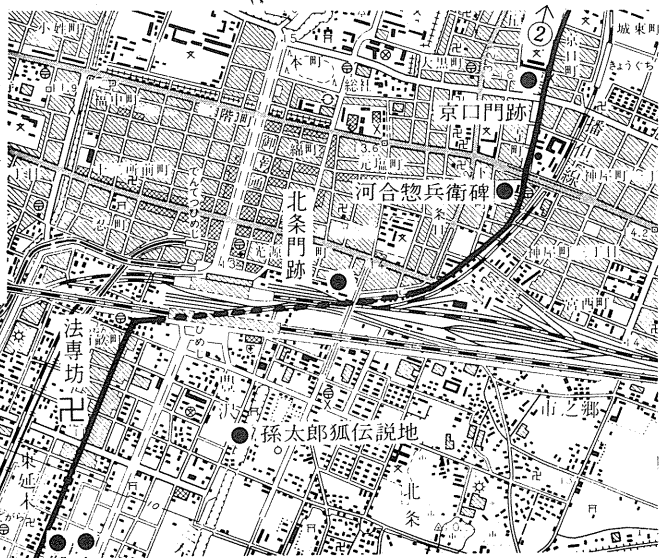
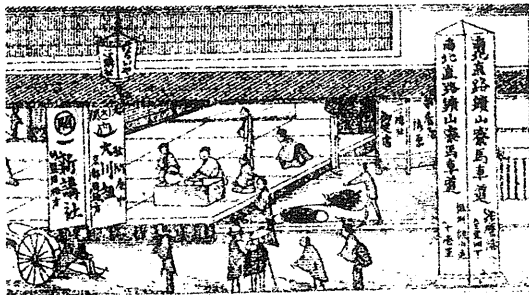
鑛山一等少手

加藤正矩

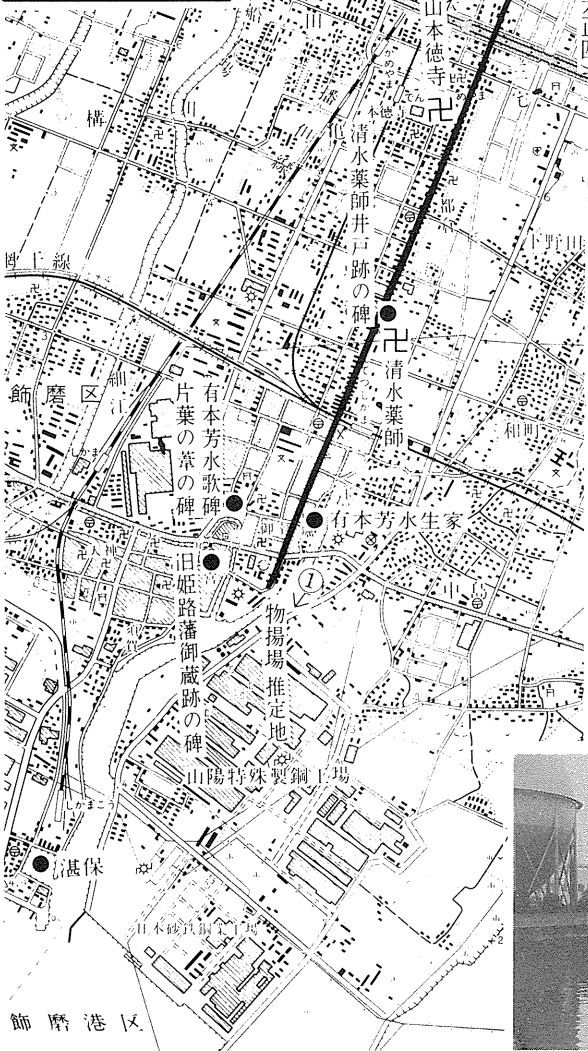
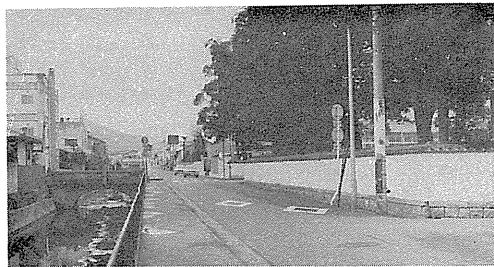
飾磨県下 姫路材木街

石工 居村

毛平之刻



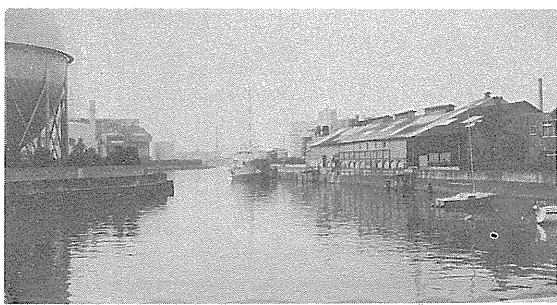
道標（『播磨有名勝地並豪商独案内』
「明治17出版」より）
京口の旅館、中居屋の前に建っていたもの。「南北直路鉦山寮馬車道、飾磨港へ巷里四丁、但州銀山恵十巷里」と書いてある。

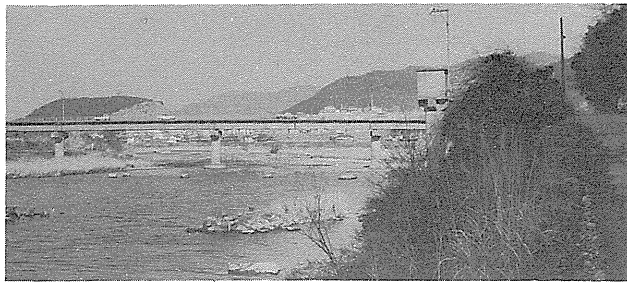


馬車道の修築 江戸時代、幕府の有力な財源となっていた生野の諸鉦山は、維新の改革によって明治新政府に接收され、官営となって支配体制が一新されることになる。新政府は、乱掘によって衰退の一途をたどっていた生野の諸鉦山を、再度、開発するため、鉦山開さくの専任者として、フランス人フランソワ・コワニーを雇い入れた。コワニーは、早速、鉦山用大型機械の導入と、技術員、医師らの派遣を建議、新政府は、これを許可することになるが、ここで問題になるのが当時の道路状況、大型機械や資材を生野まで陸送するためには、まず、道路の拡幅と補強から手をつけなければならなかった。

▲ ② 城東小学校付近 白壁の中が小学校。左は姫路城外濠の名こり。馬車道は濠の東半分を埋めてつくられた。

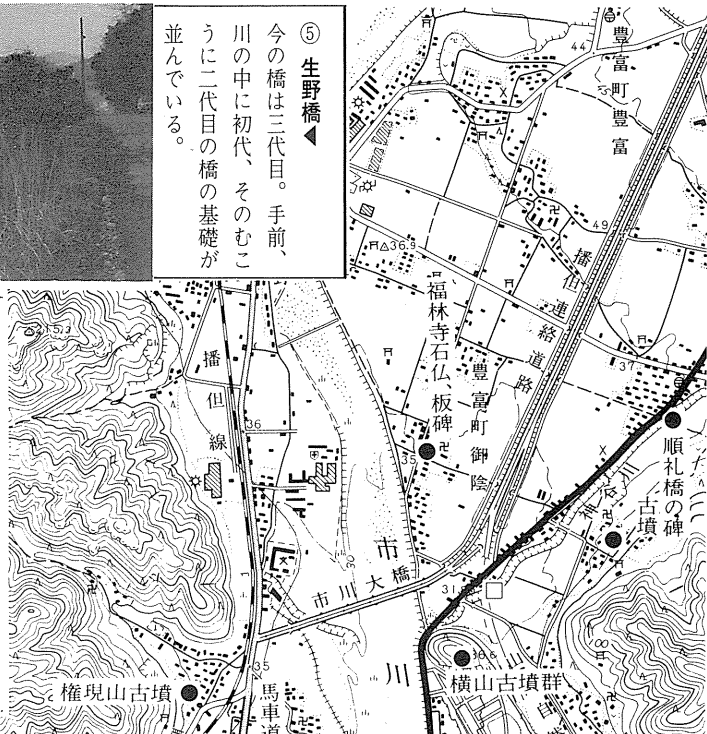
① 飾磨津物揚場推定地 写真は野田川尻、右岸のあたりが物揚場だと推定される。





⑤ 生野橋
 今の橋は三代目。手前、川の中に初代、そのむこうに二代目の橋の基礎が並んでいる。

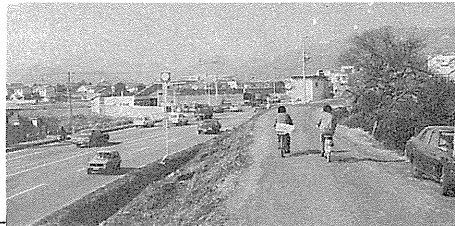
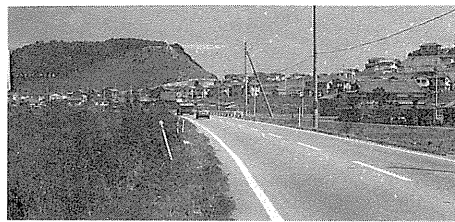
馬車道の構造 『生野鉦山創業景況書』には、馬車道修築について、かなりくわしい報告がなされているので、これを引用してみたい。まず、道路の構造については「山川の小石径一寸なるを厚さ五六寸敷き連ね」「地味に応じ荒砂碎石を押し込み」「山麓片岸の地は霖雨に際し崩壊の害あるを以て、石垣の高三四丈に至る」馬車道の修築に際しては、農業用水路にも注意をはらい、公害対策にも十分な配慮がなされていた。



⑥ 豊富町御陰付近
 市川左岸の提防上を走る馬車道は拡幅された。山の頂上が横山古墳群。



2代目生野橋のらんかん

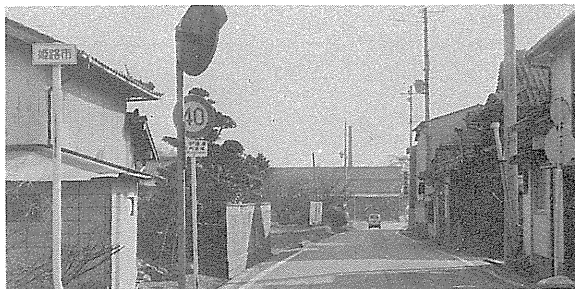
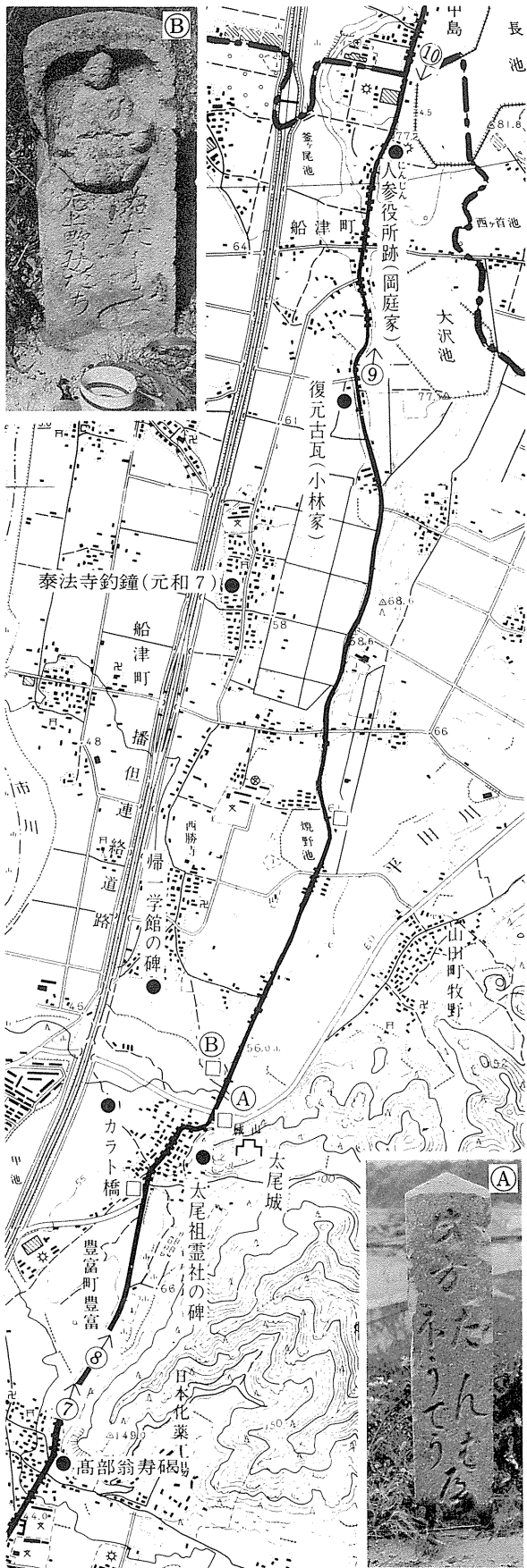


④ 野里付近
 市川右岸の提防上を走る馬車道。右の古木は河合寸翁が植えたハゼの名こりである。

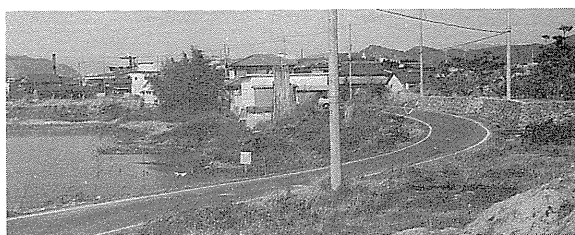


③ 城東町付近

□は道標

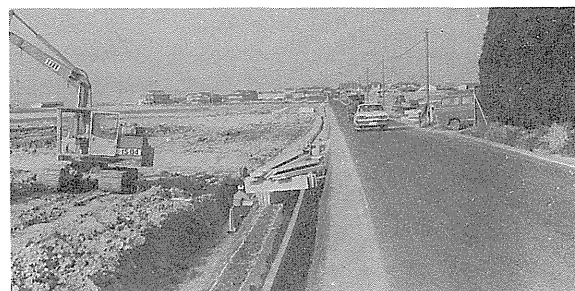


⑩福崎町との境界付近

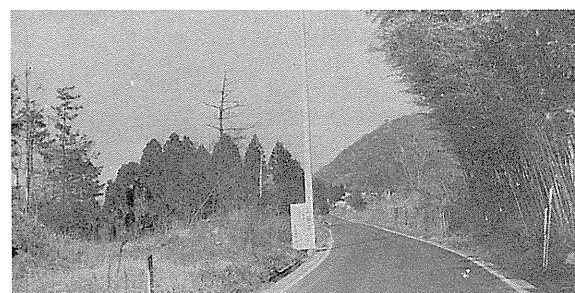


⑨大きなカーブをえがいて西光寺野へ上っていく

馬車道のルート 飾磨街道を北上して南畝町で右折し、朝日町へ、外濠ぞいに神屋町一京口町一野里一西中島一保城一砥堀で生野橋をわたり、豊富町へ、焼野池をへて辻川、屋形、大山、真弓峠を越えて生野に至る。



⑧道の両側は、ほ場整備が進み、道も広げられている。



⑦林をきりひらいて布設した昔のおもかげをとどめている。むこうの山は太尾城跡。